

奉仕の心で地域を守る

（平成25年大洲市消防出初式）

平成25年大洲市消防出初式が3月3日(日)、大洲市若宮・五郎大橋上流の河川敷グラウンドで行われました。式には市内各地域の団員や来賓者を含め、約1300人が参加しました。

式では、殉職消防職団員に対する黙とうがささげられた後、各分団による日頃の訓練の成果が披露されました。

訓練披露では、肱南・新谷分団によるポンプ車操法、柳沢・三善・粟津・長浜・岩谷・女性の各分団による小型ポンプ操法・軽可搬ポンプ操法がそれぞれ行われ、俊敏な操作が披露されました。

また、菅田・出海分団による小隊訓練が披露され、統制のとれた



一糸乱れぬ団員の動きに、会場からは大きな拍手が送られました。出初式に出席した清水市長は、日々の防災に対する取り組みに謝意を示すとともに「消防とは、あらゆる災害から住民の安心と安全を確保することである。市では、今年度中に新たな地域防災計画を策定する。また、引き続き防災行政無線の整備などを行っていきたい。みなさんと一緒に、安全で安心できるまちづくりを、全力で取り組んでいきたい」と述べました。その後、消防活動に功績のあった人や、長年にわたり消防活動の推進に尽力した団員など約310人に、表彰状や感謝状が贈られました。

私はもともと消防団の活動に興味を持っていて、夫が消防団員ということが入団のきっかけとなりました。

現在、大洲市消防団女性分団は1部（大洲地域）、2部（長浜地域）、3部（肱川・河辺地域）で構成されていて、総勢28人の団員がそれぞれの地域で訓練を行っています。

女性消防団員の主な職務は、後方支援活動です。直接消火活動は行いませんが、日頃から男性団員と同様の訓練を行うなど、体力面・精神面を鍛えています。

私たちは全員、「応急手当普及員」という資格を持っていて、夏にはAEDや心肺蘇生法の普及のため、救命救急士とともに各学校や施設、企業などを訪問します。講習を通じて感じることは、男性よりも女性の方が、人に教える能力や伝える力に長けているという点です。

消火活動などのハードな面では男性が中心となり、その任に当たりますが、防火広報に伴う戸別訪問などのソフト面では、私たち女性が主役となり、積極的な周知に取り組んでいます。男性と女性が持つそれぞれの長所を、災害や救命の現場などで発揮することができれば、より多くの尊い命を救える機会が増えると思います。

私たちは、長谷川祐子氏著の「火災や災害から子供を守るアメリカの知恵」を教材に、幼い頃から遊びの中で防災力を養うことの重要性を学びました。今後、子どもたちに、幼い頃から危機管理意識を持ってもらえるように、保育士さんなどと一緒に指導に当たりたいと考えています。

女性だからこそ できることがある

そう力強く答えるのは、現在、大洲市消防団女性分団の分団長を務める白石朱美さん。

普段あまり知られていない女性消防団員の活動について、伺いました。



大洲市消防団女性分団
分団長 白石 朱美さん

今回の出初式で、表彰されたみなさんは次のとおりです。
(敬称略・一部省略)

消防庁長官表彰

○永年勤続功労章(3人)

本部副団長 福本 定廣
本部副団長 矢野 正祥
岩谷分団副員 富永 幸男

日本消防協会会長表彰

○功績章(1人)

本部副団長 久保 博徳

○精績章(4人)

本部副団長 村上 正春
南久米分団副団長 岩田 清一
喜多灘分団副団長 中野 邦彦
予子林分団副団長 井脇 忠志

○勤続章(19人)

肱南分団副団長 白石 卓也
肱南分団副部長 神田 敏雄
肱南分団班長 山下金之丞
肱北分団副団長 渡部 和久
平野分団副団長 宮崎 宗延
平野分団副員 堺 幸久
平野分団班長 佐々木 健
大川分団副員 石神 久光
柳沢分団副部長 上浅 勝弘
柳沢分団班長 久保川深水
新谷分団副部長 祖母井良明
長浜分団副部長 浅井三月生
喜多灘分団副員 中野 邦彦
櫛生分団副員 田中 雅登

岩谷分団副員 富永 公德
岩谷分団副員 和氣 栄一
岩谷分団副員 和氣 哲弘
岩谷分団副員 和氣 智仁
河辺分団副員 本門 智壽

愛媛県知事表彰

○功労章(10人)

平野分団副団長 宮崎 宗延
大川分団副団長 新山 勝久
三善分団副団長 中野 純一
上須戒分団副団長 山本 方宣
櫛生分団副団長 坂東 晃
大和分団副団長 日野 修次
中央分団副団長 富永 秀昭
大谷分団副団長 丸川 浩一
大洲地区広域消防事務組合 成見一二三
消防司令 高岡 利典
大洲地区広域消防事務組合 消防司令 高岡 利典

愛媛県消防協会会長表彰

○功績章(6人)

柳沢分団副団長 増岡 学
新谷分団副団長 松田 忠
栗津分団副団長 芳我亀代士
長浜分団副団長 鎌田 清仁
喜多灘分団副団長 中野 邦彦
予子林分団副団長 井脇 忠志

○勤続章(20年以上)

南久米分団副員 3人
大川分団副員 寄町 靖幸
三善分団副員 深部 勝春

○勤続章(15年以上)

19人
肱南分団副部長 柴田 茂
肱北分団副部長 村田 秀雄
平野分団班長 谷口 富昭
南久米分団副団長 吉月 剛
菅田分団班長 中嶋 浩嗣
大川分団副部長 石岡 泰幸
柳沢分団副員 塚本 喜市
新谷分団副員 林田 陽一
三善分団副員 樋田 昭浩
栗津分団副団長 楠野 明男
上須戒分団副員 宮尾 勇
櫛生分団班長 小森 孝
大和分団班長 山本 錦一
白滝分団副員 久保 典夫
白滝分団副員 大野 武雄
正山分団副員 坂 弘務
予子林分団副員 藤原 優勝
河辺分団副員 清水 修
河辺分団副員 井上 元一

○勤続章(10年以上) 15年未満

30人
肱南分団副員 松田 信
肱南分団副員 島田 定幸
肱北分団班長 吉岡 恵一
肱北分団班長 西山 誠治
平野分団副員 崎野 光一
南久米分団班長 納庄 達也
菅田分団班長 守野 吉治
菅田分団副員 長岡 明德
大川分団副員 山下 誠二
柳沢分団副員 松田 友和
新谷分団副員 池田 祐二
新谷分団班長 祖母井 章
三善分団副員 清水 浩一
栗津分団副員 大塚 佳照

栗津分団副員 須内 憲一
上須戒分団副員 滝野 彰一
長浜分団副部長 大谷 周稔
長浜分団副部長 大塚 和利
櫛生分団班長 坂東 國保
出海分団副部長 畑中 智一
大和分団班長 木下 健次
大和分団班長 荒木 徹
白滝分団班長 岡田 忠治
中央分団副員 村田 学
中央分団副員 桑原 健司
大谷分団副員 森 英勝
大谷分団副員 兵頭 徹
河辺分団副員 藤田 豊樹
河辺分団副員 松下 義之
女性分団副団長 白石 朱美

○家族内助の功労章(1人)

本部副団長 矢野 貴子

○優良団体表彰(2団体)

栗津婦人防火クラブ

会 長 大本イヨ子

大和地区自主防災組織

会 長 藤岡 秋雄

夫婦消防団員表彰(1組)

親子消防団員表彰(1組)

大洲市長表彰(62人)

大洲喜多消防団連合会長表彰

○規律章(32人)、勤続章(47人)

大洲市消防団長表彰(68人)

大洲市消防団長表彰(68人)

肱川地域小学校統合合意書調印式

正山小・大谷小・予子林小と中野小が統合

肱川地域小学校の統合合意書調印式が2月11日(月)、肱川公民館で行われ、関係者約70人が参加しました。開会にあたり清水市長は、閉校となる小学校区の決断に謝意を示すとともに、「閉校となる正山・大谷・予子林の3つの小学校は、約140年の歴史を持つ学校であり、地域の中心的な施設である。今後は、地域に活力を与える施設となるよう、みなさんと考え支援していきたい。また、受け入れ先である中野小についても統合後、名称が変更され、肱川小となる。歴史の重さを検証することなどについて、市としてもできる限り応えていきたい」と述べました。

調印式では、清水市長、兵頭教育委員会委員長、それぞれの校区の統合検討委員会の代表者、PTA会長が統合合意書に署名しました。

署名後、正山地区小学校統廃合に関する検討委員会の沖浦賢嗣会長があいさつを行い、「閉校を実感し、思いが胸につかえて言葉にならない。検討を重ねた結果、子どもたちは大勢の中で教育を受ける方が良いとの結論になり、閉校は苦渋の決断だった。子どもたちが、新しい学校でのびのびと過ごすことに期待している。明るく元気な子どもに育ってほしい」と述

べられました。

また、受け入れ先となる中野小学校区統廃合検討委員会の松尾國和委員長は、「統合により名称が肱川小となり、中野小という校名がなくなるのは忍び難い。子どもたちの将来のことを考えると、苦渋の選択だった。今後は、統合に向けてみなさんのお力添えをいただきたい。統合して本当に良かったと思えるような小学校にしたい」と話されました。

今回の調印により、正山小・大谷小・予子林小は、平成26年4月に中野小と統合し、校名は肱川小になります。



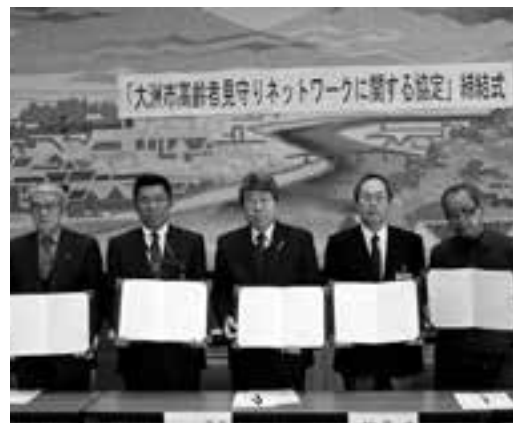
大洲市高齢者見守りネットワークに関する協定締結式

大洲市高齢者見守りネットワークに関する協定の締結式が2月20日(水)、大洲市役所で行われました。

この協定は、近隣住民との付き合いが希薄化し、高齢者の「孤立死」や「孤独死」が社会問題となっている状況を踏まえ、行政と民間事業者、地域の連携により、高齢者を見守るネットワークを構築することを目的としています。

この日は、協定の趣旨に賛同する市内14事業所のうち、出席した4事業所と清水市長が、それぞれ協定書に署名を行いました。

署名後、清水市長は協定の締結に対する謝辞を述べるとともに、「核家族化や高齢者世帯が増加している現在、日常の中で高齢者の



生活を見守り、情報を共有できれば、素早い対応が可能となる。コミュニティの中で支え合いができる地域づくりを、事業所のみならずと一緒に目指していきたい」と話しました。

また、事業所を代表して生活協同組合コープえひめの松本等理事長は「今回の協定は高齢者に対するネットワークの強化、人と人とのつながりができる点で、とても意義がある。14の事業所には、それぞれ持ち味があり、特性を生かすことで命を守っていきたい」と今後の決意を述べられました。

この協定は、締結後直ちに運用され、高齢者の安全を見守っていくこととなります。

「水郷の数寄屋 臥龍山荘」が 愛媛出版文化賞を受賞

このガイドブックは、2011年5月に臥龍山荘がフランスで発売された「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン改訂第2版」に1つ星の評価で掲載されたことを機に、出版を企画したもので、新谷出身の貿易商の河内寅次郎氏が市内随一の景勝地「臥龍淵」に建てた「臥龍山荘」を解説したものです。

第28回愛媛出版文化賞の第4部門賞の審査では、大洲地方の歴史や文化を振り返り、大洲の良さを再発見することに役立つものであること、今後の地域文化の向上や観光振興に大いに貢献できる意義深い著作であることなどが評価されました。

市から「臥龍山荘を徹底的に解説できるもの」という依頼を受けて取材・執筆した中村英利子さんが、河内寅次郎氏の成功の歴史をひも解き、肱川にせりだした大胆な懸け造りの不老庵や、千家十職による床くぎやふすまの引手など、細部にこだわった意匠の解説をしています。

中村さんは、今回の取材・執筆を通して、臥龍山荘について「あの時代でないと建築できなかった

奇跡の建築物。奇跡的だけど、突然できたわけではなく、深く大洲と結びついている」と話されています。

大洲市の宝である「臥龍山荘」に市民のみなさんにも足を運んでいただき、明治の粋・美意識を体現した空間の魅力を体感してみてください。

【本の価格】 1500円

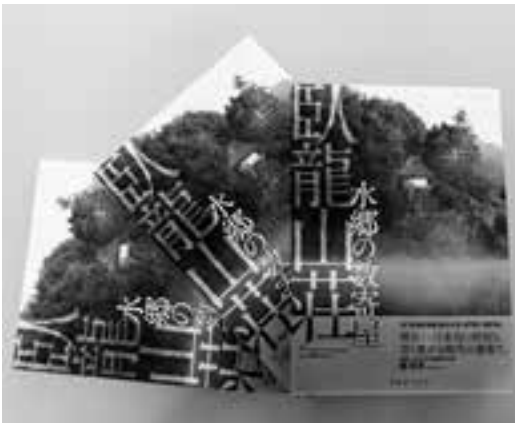
【販売場所】

▽市内の観光施設

▽県内明屋書店（取り寄せ可能）

▽ネット販売（Amazon.co.jp）

▽電子書籍



平成24年度大洲市人権・同和教育研究大会

平成24年度大洲市人権・同和教育研究大会が2月15日（金）、国立大洲青少年交流の家で行われました。

約300人が参加したこの研究大会は、「差別の現実から深く学ぶ」ことを基本理念とし、市内各地の教育実践の交流を通して、今後の人権・同和教育の推進と差別解消を目指しています。

午前中は、学校教育と社会教育を組み合わせた5つの分科会に分かれて、10本の実践報告を基に活発な意見交換が行われました。各分科会に参加したみなさんは、発表される実践報告に、真剣に耳を傾けていました。



午後からの全体会では、奥田均氏を講師に迎え「差別のカラーを考える」と題した講演が行われました。

「差別をすすめる基準は外からやってくるのではない。自分の中にある基準と、部落問題への理解が自分を律し始める」と話され、忌避意識の克服に、発想の転換が必要であると力あふれる語りで訴えられています。

大洲市では、「大洲市人権尊重のまちづくり条例」を制定して、今後も、人権を尊重する社会やその環境づくりに取り組んでいきます。